

『筋萎縮性側索硬化症における診断、予後予測 バイオマーカーの開発』 お知らせ

1. 実施目的について

筋萎縮性側索硬化症（以下、ALS）は、いまだ原因が明らかではなく、根本的治療法のない病気です。また、病気の初期には、診断がつきにくいこともしばしばあります。

この研究ではALS、パーキンソン病、進行性核上性麻痺、大脳基底核変性症、多発性硬化症、脊椎症と診断された患者様の中で、当院にて病理解剖にご協力いただいた方を対象に、もともと脳やせき髄に存在するミクログリアがどのように変化しているか、あるいは変化していないかについて調べることで、ALSの方に特徴的なパターンを見出し、それを、早期診断や治療につなげていくことを目的としています。

2. 実施内容について

これまで当院の脳神経内科・内科にて亡くなられ、病理解剖にご協力いただいた患者様のうち、ALS、パーキンソン病、進行性核上性麻痺、皮質基底核症候群、多発性硬化症と診断された方の一部が対象となります。その方々の脳やせき髄の標本と、診療情報（診断名、年齢、性別、罹病期間、ALS では発症部位等）を、匿名化によって個人が特定されないようにした状態で、金沢大学附属病院脳神経内科の研究室に提供します。

金沢大学附属病院にて、脳やせき髄の標本をミクログリアがよくわかるように免疫染色をし、その結果と診療情報を検討します。

3. 研究代表者および共同研究者

石田 千穂（医王病院 第三診療部・神経内科 診療部長）

共同研究者 山田正仁（金沢大学大学院脳神経内科学 教授）

野崎一朗（同 助教）

坂井健二（同 助教）

4. 研究期間

これより2024年3月末までです。

5. 予想される利益と不利益について

この研究はデータの調査だけを行う研究であり、この研究に参加しても患者さんに直接の利益はありません。予測される不利益として個人情報の流出の可能性は0ではありませんが、そういうことがないようにデータの取り扱いについては、外部に漏れることが無いよう細心の注意を払います。

6. 個人情報およびプライバシーの保護について

それぞれの患者さまの個人情報は、個人が特定できないデータに変換された上で、金沢大学附属病院に提供され保存されます。この研究により、個人情報やプライバシーの漏洩や公開は生じません。

この研究の成果は、個人が特定できないデータとして、学術的な場でのみ公表します

7. 本研究に係る資金ならびに利益相反について

この研究は、当院および金沢大学附属病院脳神経内科の研究費にて実施するものです。

別紙 4

本研究の金沢大学研究担当者は「金沢大学臨床研究利益相反マネジメントポリシー」に従い、臨床研究利益相反マネジメント委員会に必要事項を申告し、審査と承認を得ています。この研究において用いる試薬を製造販売している会社(または関連機関)との間に利害関係はありません。従って、この研究の実施の際に個人的な利益のために専門的な判断を曲げるようなことは一切いたしません。

8. 研究への不参加の自由について

試料・情報が当該研究に用いられることについて、ご了承いただけない場合には、研究対象としませんので、2023年3月31日までに下記の問い合わせ先までお申出ください。

9. 本研究に関するお問い合わせ

上記のように、個人情報やプライバシーを保護した状態であっても、調査対象となることを拒否される場合、また、この研究についてご質問がある場合には、下記までお問い合わせください。

医王病院 脳神経内科 石田千穂

国立病院機構 医王病院病院長 駒井 清暢